

6月21日(日)①10:30 ②13:10 ③15:50 ④18:30 ●徳島市ジビックセンターさくらホール



戦車に囲まれても、命がけで報道を続けた、ラジオ局員たちの姿に胸が熱くなる、感動の実話！

チェコスロバキア国営ラジオ局の国際報道部は、部長ミラン・ヴァイナーの下、政府の検閲に抵抗し自由な報道を目指して活動している。亡き両親に代わり弟パーヤの世話をするトマーシュは、中央通信局で働いていたが、上司命令により報道部で働くことになった。

それは、学生運動に参加している弟を見逃す代わりに、報道部とヴァイナーを監視する国家保安部(StB)に協力させるためだった。

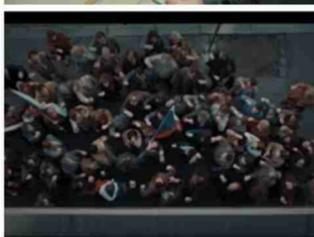
ヴァイナーや局員たちの真実を報道しようとする真摯な姿勢を間近で目にし、信頼され仕事も任せられるようになったトマーシュは、弟の心配と良心の呵責で葛藤する。

やがて、“プラハの春”が訪れ、国民が歡喜する中、トマーシュは中央通信局に呼ばれ、驚くべき内容をラジオで報道するよう命じられる。ソ連の共産主義支配下にあった東欧のチェコスロバキアでも、若者たちがデモやチャリンで民主化運動を起した。その機運は国中に広まり、検閲の廃止や言論の自由が認められ、ついに“プラハの春”が訪れたと国民が思った矢先、ソ連がワルシャワ条約機構の軍を率いてチェコスロバキアに侵攻。

軍は、当時の最大報道機関であるラジオ局を制圧し、「ソ連がチェコスロバキア国民を救出に来た」とフェイクの放送を流そうとする。

しかし、ラジオ局の報道局員たちは、権力と戦車に立ち向かい、回線技術を駆使し、ラジオ局の外から真実の報道を続け、市民を励まし続けた。

1968年〈プラハの春〉ソ連軍が侵攻する中、市民と自由のために、真実の放送を続け闘ったラジオ局員たちの緊迫の実話！



入会お申込

お名前

(男・女) 年齢( 歳代)

ご住所 〒

電話番号